



安本浩樹さん
(山陽四国教区 安芸北組 専光寺 住職)

帰敬式とは、「仏」「法」「僧」の三宝に帰依し、お念仏の教えを拠り所として生きることを誓う大切な儀式です。宗門では、一人でも多くのご門徒の帰敬式受式を願い、1996年から「帰敬式実践運動」を始め、今年で30年を迎えます。私にとっての帰敬式とは――。今号では、広島のお寺で住職をされている安本浩樹さんに帰敬式の願いについてお話をいただきました。

〔研修部 帰敬式実践運動推進事務室〕

特集 インタビュー

帰敬式の願いをたずねて

――安本さんのお寺で行われている帰敬式の様子を教えてください

お寺の報恩講で2年ごとに帰敬式を行っています。一人ひとりが歩まれてきました人生を思い出し、これからどのような人生を歩んでいただきたいかを考え、法名をおつけします。受式後に「私の人生の大きな節目になりました。住職さんからの言葉と共にいただいた法名を大切にしていきたい」と、お手紙をいただいた時はうれしかったです。生涯にただ一度、感動をともにできる大切な儀式だと思います。

普段お寺にお参りに来られない方が受式されることもあります。うれしいこと、つらいこと、悲しいこともあったであろう人生の歩みの中で、お寺に参ろう、帰敬式を受けようと思われる方は、よくよくのことでしょう。人生のさまざまなことが仏法と通ずると感じられて、お寺にお参りくださったのだと思います。



真宗本廟での帰敬式

――生きている今だからこそ
帰敬式を受式するのですね

人生は、縁によってまるで波のようにいろんなことが押し寄せてきます。それも一緒に歩んでほしいと私がかけられた願いの名であるとも思います。

――帰敬式を縁として、どのような歩みが始まるのでしょうか？

釋(尼)○○という法名は、仏弟子として歩みたいという名のりであると同時に、法名を名のる以前から仏弟子として人生を歩んでほしいと私にかけられています。昔はご本尊のことを「おやさま」と呼びならわしていました。「親のような心をもつ仏さまが阿弥陀さまなんだよ。いつもあなたのことを大事に願っていてくださるんだよ。だからお念仏申して仏さまの教えを聞いていきましょね」と親鸞聖人が勧めてくださっている。そう語り継がれてきました。

帰敬式は、仏法僧の三宝に帰依することですが、その中でも特に僧宝、僧伽(念仏とともにいただいていく人々)によつて教えが確かめられてきました。これ

やつてこないかというとそうではありません。ただ、仏弟子として、仏法に育てられながら歩む人生は、その苦悩に意味があるから歩む人生は、その苦悩に意味があります。苦しいままにとどまらない。そのままの人生を歩んでいただきたいかを考え、法名をおつけします。受式後に「私の人生の大きな節目になりました。住職さんからの言葉と共にいただいた法名を大切にしていきたい」と、お手紙をいただいた時はうれしかったです。生涯にただ一度、感動をともにできる大切な儀式だと思います。

帰敬式を受式し仏弟子となつた、そのことを日々の中忘れてしまうことがあります。それでも、なかつたことにはなりません。そこに帰敬式という形をもつた儀式の意味があると思うのです。お寺のご本尊、真宗本廟での御真影の前で誓つた「本願を信じ念仏申す生活」に立ち返ることができます。忘れることがあつても、自分の中に大切なものが呼び覚まされていく。そういう人生の節目としての意味があると思います。

――だから、親鸞聖人はともに聞いていくことの大切にされたのです。帰敬式を縁として、これまでつらいこととおしてのみ、教えられることがあつても、なかつたことにはなりません。そこで、こうえ辛抱しながらも今日まで歩ませてくれたもの、私の知らないところで私を支えてくださったものがありはしないか。そういうものを見つめながら歩む人生は深いものになるのではないでしょうか。帰敬式とは、人生において第二の誕生だといつたいています。



真宗本廟奉仕で
お寺や別院で



さまざまな機会に多様な年代の方が受式されています

帰敬式を受け、法名をいただいて
親鸞聖人と一緒に仏さまの教えを聞いていきませんか？

帰敬式は、真宗本廟(東本願寺)、全国の別院やお手次のお寺で受式することができます。

詳しくはお手次のお寺や別院・教務所にお問い合わせください。

*礼金:(お一人)21歳以上10,000円、20歳以下5,000円

別院や寺院での受式の際は別途記念品代等がかかる場合があります。

東本願寺公式ウェブサイトで帰敬式の情報を発信しています!!

このインタビューの全体を
宗派ウェブサイトで
ご覧いただけます。

受式者の声
紹介

受式についての
Q&A

チラシや
リーフレット

詳しくは
こちら→

